



一番取りやすい全日本大会(JTOC)では、つまらないミスをしてE権を取り損ねた。相性のよかった愛知の大会は、多摩OLのJC大会とぶつかって参加できなくなった。

なんとしてもこの大会でE権を取るぞという意気込みで臨んだ。

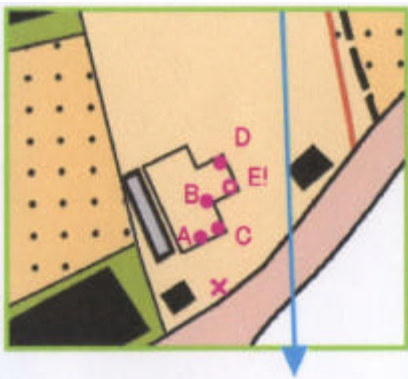
まずはTC

TC1:(建物 通過可 の西角)

すぐ目の前の荒れた畑のようなところに置いてある。一瞬、何に置いてあるのかと思った。

地図をもらうと、植生界のような黒線があり、それが支柱枠であることが分かり、すぐに判断できた。

そのまま TC チェッカーのボタンを押しても良かったのだが、いつもの慎重癖でもう一度地図を見直し、再確認してから押す。若い人は短時間で押したのだろうと反省。



TC2:(ヤブの北東側)

今度はちょっと距離がある。見通しはよく、大小のヤブがぼつんぼつんとあり、その脇に置いてある。

地図をもらうと、ヤブとの対応はすぐでき、今度は躊躇なくすぐ解答ボタンを押す。それでも5秒はかかったが。

コース(前半)

1番:(小川の南側)

直線の川の横に並べておいてある。対岸の住宅の植生界(塀)がポイントになると考える。しかし、戻って塀の延長上にあるフラッグを確認しようとしても、フラッグは少し下がった位置にあるの

で見えない。そこで近くの看板等をマークしておき、橋の上にもどりそこに近いものを選ぶ。

一応塀の角度を測定したとき少しずれていて、「正解なし」もちょっとだけ考えたが、この程度では誤差の範囲だと思った。

2番:(湿地、西の部分)

3番4番5番のコントロールを間近に見ながら2番へ行く。



近くに黒の×印がある。それとの関連が重要と思われ、まずそれと円の中心の角度を調べる。しかし、位置関係が見た目と合わない。×印は湿地と重ならないように転移されているようだ。

結局湿地の西端を確認し、そこに近いものを選ぶ。

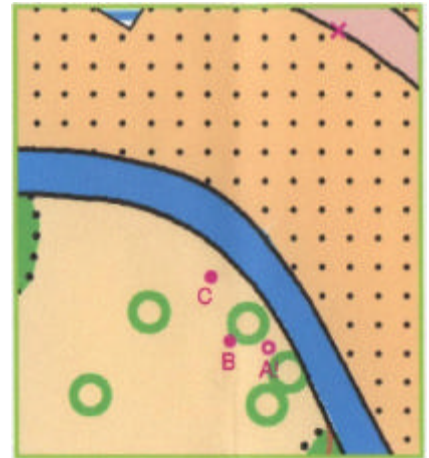
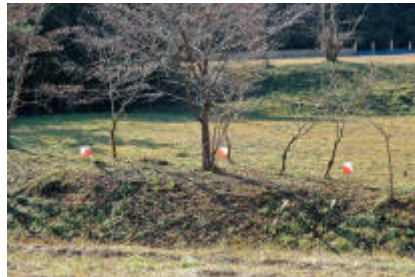
3番:(目立つ木と目立つ木の間)

先ほど3番4番のフラッグは近くにまとまって置いてあるのを見てきたが、DPから見ると3番の3個しか見えないようになっている。面白い設定だ。

地図に描いてある木以外にも同じような木があり、それらを巧みに利用してフラッグが置かれている。しかし、木の太さ・並びを考えれば、それらの木を特定するのは難しくはなかった。

問題はその後だ。

木と木の間付近にAフラッグはあるのだが、ずれているように見える。前後に移動しても木と木が重なる前に手前の障害物で見えなくなる。



判断は南へ移動した位置から行った。Aフラッグは西にずれていて直線上にないことは分かる。しかしこの程度のずれで「正解なし」にするのかとも思った。だが、木と木の直線上に正確に置くことは容易なことだから(木と木が重なって見える位置に移動し、フラッグの中心が見えなくなるように置く)、ここは「正解なし」と判断したが、やはりAが正解であった。

4番:(北西のヤブ、南東側)

3番の近くにあってテープ等のエリアの仕切りがないと思っていたら、3番のフラッグも共通に利用する設定だった。

(3番4番でフラッグは合計5個だが、3番はA-C、4番はA-Eとなっている)

距離があってヤブの特定がしづらい。前後に移動し、手前の木との位置関係を見ながら対象のヤブを決める。その後何度も移動してフラッグの隠れ具合を見て、南東側にあるBを判断する。

5番:(岩崖、西の部分)

崖の直線部分に等間隔に置いてある。ここは単純に分割問題かなと推測し円の中心の位置を決め、比例分割して割り出す。

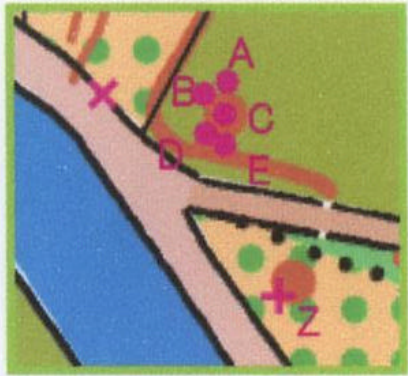
6番:(柵の曲がり)

地図を見るとNクラスの課題のようにも見える。現地に行って柵を見ても地図どおりだ。あまり簡単すぎて「正解なし」があるのかとみるが、単純明快すぎて疑う余地がない。

(後から聞いたのだが、見る位置によっては正解の隣のフラッグが曲がりに見えるとのことだった。)

7番:(南東のコブ、南西の根元)

手前から歩いていくと道の感じがおかしい。よく見るとぜんぜん違う場所にフラッグが付いている。すぐ「正解なし」と分かったが、一応コンパスで角度を測るしぐさをして、指差しでABCを確認する振りをして脱出する。



コース(後半)

8番:(尾根の上部)

3つのフラッグが接近しており(他の2つはすぐに除外)いずれも尾根の上部と見える。単純に考えれば真ん中の傾斜変換点のものと思うが、そう簡単にはいかないのがトレイルだ。円の中心点の見極め、柵の曲がりからの距離、他いろいろチェック。こんなところでも結構時間を費やす。

9番:(人工特徴物、南西側)

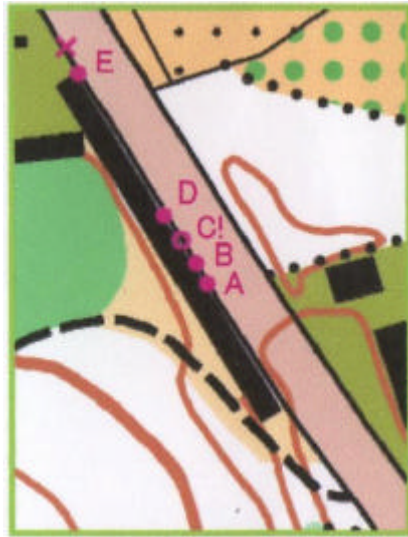
またもやNクラスの課題のようにも見える設定だ。ぱっと見て道路側のものが正解と思った。でも念のためにコンパスを振る。思っている方向に針が振れない。金属に作用されているかとそこから離れたり、別の角度に回ったりする。道路が南北方向に走っているとの先入観からきた勘違いだった。

改めてコンパスを慎重に振り、南西側がないことを確認する。

こんなところにも以外に時間を費やしてしまった。

10番:(岩崖)

地図上では崖のちょうど真ん中のようだ。単純に二分割にすればいいと歩測を開始する。ところが南東の方に行くと崖は低くなり、端では0mである。小径の分岐とも位置関係が合わない。道路の反対側に民家の植生界もあるが、位置決めにはコブ等の関係で精度が心配だ。結局崖の分岐と小径の分岐を基準にして、慎重に何度も歩測を繰り返して割り出す。



11番:(テラス、東の部分)

地図から推測すると下の果樹園から一段高くなった平らな土地と見える。実際は地表面のうねりがあり、補助コンターでも表しきれない高低差がある。等高線は正確に同じ高さを表現するというよりは、地形のイメージを表すという描き方に思える。0Lではよくあることだ。道路と奥の林との距離からコンターの位置を推測して選ぶ。

12番:(小川)

フラッグ群のすぐ近くにDPがある。接近して設置されているが、近くから見ているので小川の北端・池の縁等よく分かる。植生界の延長上にあるものと見てそれを選ぶ。

13番:(耕作地、南の部分)

DPも見る方向も12番とほとんど変わらず。12番で使った植生界上の近くに設置されている。植生界線上の中心なのでDPから見るだけでも大体的見当はつく。しかし、「正解なし」を考えると少し危ない。時間に余裕があったので、北側の道路まで回りこんでみる。距離が離れすぎていてコンパスも当てにならないかと思ったが、大体その方向を指したのでよしとした。

14番:(尾根)

もう一つぐらい「正解なし」があるのでは、と思いつつ臨む。向かう途中から近い位置に設置してあるのが分かる。東側にあるコブや橋等と位置関係を確認し、フラッグ数も見て、自信を持って「正解なし」とする。

検討会でセッターと共に現地へ見に行く。道路からはずれ、よく確認できるところまで入り込む。フラッグは確かにずれている。

その後このコントロールについて提訴があり、裁定委員の判定となったが、裁定は「正解あり」となった。

結果としては11位に終わりE権は取れず、残念!!

コントロール3番のような場合、どの程度までのずれが許容範囲であるという基準が明確になっていないと思う。

きちんと基準を作って周知させていかないと、これからも同様の事例が発生し、不満の人が増えていくと思った。

(児玉 拓)

(なお文中の写真は、上林弘敏さんの提供です)

そして結果は

結果は3番だけが間違っていた。

上位常連者で何人かは私と同じ答え(正解なし)がいたが大半は正解ありとされていた。ちょっと腑に落ちなかった。